

凄まじい温暖化の影響

——とまれ、この仕事で新たな世界に通ずることを祈り、
来たる年も力を尽くしたい

PMS (平和医療団・日本) 総院長/ペシャワール会現地代表 中村 哲

全ての力を川周りへ

川とにらめっこしているうちに寒くなり、河川工事の季節が再び巡ってきました。みなさん、お元気でしょうか。

今冬の川の工事は、カマ第一堰^{せき}右岸の補強工事に加え、マルワリード堰の抜本的な改修があります。既に七月から準備し、川の水が下がる十月下旬、「全ての力を川周りへ」と、一気に取りかかりました。カマ第一堰は最新の堰でしたが、対岸に予期せぬ浸蝕が発生したため、急遽決定したものです。増水期の三月までに、全ての必要な工事を速やかに終えねばなりません。

最大の標的はマルワリード堰で、堰だけでなく用水路の本格的な改修が予定されています。これは建設後十六年を経て、ある程

度の補強が必要になった部分があり、昨年の鉄砲水被害からの復旧もあります。また、何よりも今後の維持の上で、私たちが範を垂れておく必要があります。

人々の生活の安全を

マルワリード用水路は山腹を這うように作られています。鉄砲水や土石流が通る谷をいくつも通過します。谷といっても、四千メートル級の山から流れてくる洪水や土石が、信じられないような勢いで下ってきます。日常的に通過する所はある程度対策が立てられますが、最近の降雨は予測が不可能で、大丈夫と思っていた箇所が鉄砲水で決壊したり、通過水量が予想をはるかに超えたりで、その都度マメに補修しながら守る以外にないのです。



鉄砲水で塞がれた国道と、水位が下がるのを待つ人々(2007年4月1日)

普通の国なら行政が責任をもって保全するのでしようが、まだまだ途上のようなここでは安全とはテロ対策のことばかりで、人々の生活の安全が考慮されてきたとは思えません。今は地元民と協力しながら、将来の河川行政の確立を待つ他はないようです。

猛烈な勢いの沙漠化に抗して、今ほとんかくこの希望を守り育てるべきだと考えています。

「緑の大地計画」は更に拡大の勢いで、来

年からはバルカシコート堰、ゴレーク堰が着手されます。

バザールが立ち並んで大混雑

このところ、作業現場までの道路が信じがたい大混雑で、いつの間にか延々とバザールが立ち並び、それが常態となっていました。以前には考えられないことです。特にジャラバードからカマ郡に至る約二〇km区間がひどい状態です。

考えれば当然で、農地が復活した私たち



シェイワ郡日曜バザールの現在。牛が人の中に紛れて見えないほど活気に満ちあふれている(2019年10月6日)

の作業地(ジャララバードの北部三郡)が州内で最も住みやすい場所になっているうえ、これまで最大の避難先であったパキスタンが難民の越境を厳しく取り締まり、もう逃げていく場所がないからです(パキスタン自身が何年も不作と不況に喘いでいます)。

干ばつは確実に進行

水の仕事を始めてから十九年、干ばつは動揺しながら確実に進行しているように思われます。かつて豊かな農村地帯で聞こえたソルフロッド郡は沙漠化で見る影もなく、スピンガル山麓^{ふもと}は僅かにドウルンタダムからの用水路が細々と潤すにとどまっています。川沿いも気候変化で濁水と洪水が併存し、年々荒れていきます。温暖化の影響はここアフガニスタンでも凄まじく、急速に国土を破壊しています。

それでも依然として、「テロとの戦い」と拳を振り上げ、「経済力さえつけば」と札束が舞う世界は、沙漠以上に危険で面妖なものに映ります。こうして温暖化も進み、世界がゴミの山になり、人の心も荒れていくのでしょうか。一つの時代が終わりました。

とまれ、この仕事で新たな世界に通ずることを祈り、真っ白に砕け散るクナル河の、はつらつたる清流を胸に、来たる年も

力を尽くしたいと思います。

良いクリスマスとお正月をお迎えください。
二〇一九年十二月 ジャララバードにて



中村 哲(なかもと ちしゅ) 九州大学医学部卒。専門II神経内科(現地では内科・外科もこなす)。国内の病院勤務を経て一九八

四年パキスタンのカイバル・パクトゥンクワ州(旧北西辺境州)の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保(井戸掘り、カレーズの復旧。作業地一六〇〇カ所以上)、事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始、〇三年三月からは灌漑水路建設に着手し、〇年三月全長約二五キロが開通。ガラエヌール診療所の年間診療数約四七、〇〇〇人(二〇一八年度)。